

No. 16-148 第17回リーダーを目指す技術者倫理セミナー
—事故・不祥事の背景から学ぶリスクマネジメント：
どこまで安全を求めるか—

(技術と社会部門, イノベーションセンター 合同企画)

協賛 (予定) 日本技術士会, 可視化情報学会, 計測自動制御学会, 自動車技術会, 精密工学会, ターボ機械協会, 日本計算工学会, 日本航空宇宙学会, 日本塑性加工学会, 日本鋳造工学会, 日本マリンエンジニアリング学会, 日本ロボット学会, 溶接学会, 化学工学会, 日本建築学会, 土木学会, 電気学会, 日本化学会, 電子情報通信学会, 日本船舶海洋工学会, 日本航海学会

開催日 2016年11月12日(土) 10.00~17.00

会場 東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京 5階501室

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

JR 山手線・京浜東北線 田町駅から徒歩1分

都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅から徒歩5分

<http://www.cictokyo.jp/access.html>

今回のテーマおよび論点

「どこまで安全を求めるか」

技術の安全に関しては、日本と欧米との考え方の違いが存在する。具体的には、災害が起こる原因が人であるか、技術であるか、あるいは、安全対策にかかるコストの額などである。日本では、注意すれば事故は防げる、との基本的な考え方があるが、欧米では、機械は壊れるものであり、人は過ちを犯すものである、との考えである。この考えをもとに、安全と危険との境界はどこか、受け入れ可能な境界、受け入れ不可能な境界はどこか、また、どちらでもない領域、つまり、安全か危険かわからない状態の領域の存在を許容するか、などの考え方を議論し、社会的合意を形成する必要がある。

安全か危険かわからない状態の領域は、許容可能な領域とも呼ばれ、可能な限りリスクを低くしなければならぬALARPの原則がある。ALARPは、“as low as reasonably practicable”の略で、キャロットダイアグラムで表現されることがある。高いリスクを上、低いリスクを下に書くが、別の表現では、下図のようになる。

そこで、リスクはどこまで低下させればよいか、リスクを減らすために、いくらでもお金をかけるのが合理的か、安全と危険との境界、ステイクホルダーへの説明責任、リスクコミュニケーションについて、皆様と議論を深めたい。

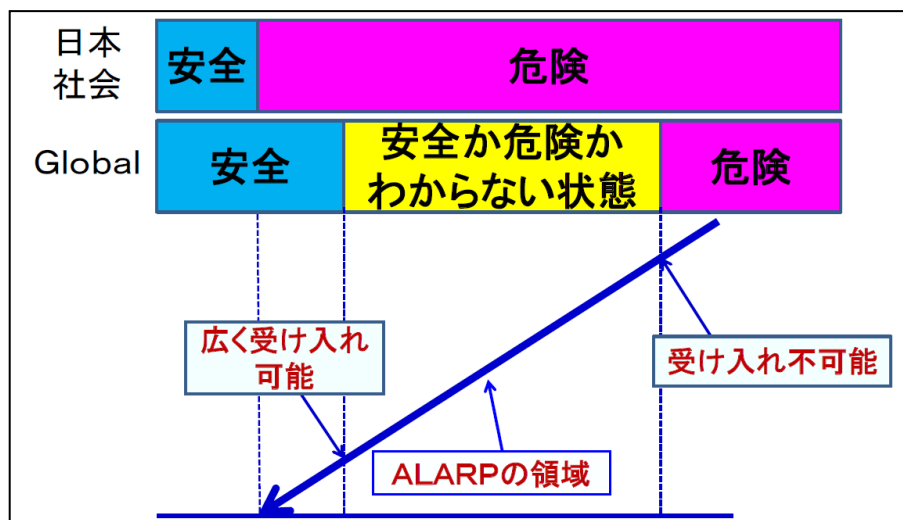


図 日本社会とGlobalでの安全の考え方の違い

< 討論課題 >

参加者の経験、知識に基づいた討論課題を考えており、グループ課題については配付資料に記載する。

セミナーでは、次の手順により議論を進める。

1. 事前に配付された資料による自主学習（事例についてインターネット等で調べること）。
2. グループ意見交換において、自分の意見を明らかにする。
3. 全体討論において自分の立場を明確にして議論する。

事前に配付する資料を読んで頂いて、参加されることを前提とする。

プログラム

10.00～10.10 / セミナーの趣旨説明, 本日の進め方

横浜国立大学 大学院工学研究院 教授 (主査) 高田 一

10.10～11.30 / どこまで安全を求めるかについての概要

東京工業大学 イノベーションマネジメント研究科 特任教授 中村昌允

11.30～11.50 / 討議の趣旨, 討議の進め方

オカダ・アソシエーション 技術士 岡田恵夫

11.50～14.00 / グループワーク

14.00～17.00 / 技術者倫理に関する全体討論

明治大学 理工学部 准教授 村田良美
KoPEL 技術士 小西義昭
講師全員
司会 高田 一

定 員 30名, 申込み先着順により定員になり次第締め切ります。

参加費 (資料代含) 会員 3,000 円, 会員外 5,000 円, 参加費は当日会場にて申し受けます。10月26日までに、お申し込み下さい。事前に (11月4日ごろ) E-mail で資料を送信いたします。以降は、定員に余裕がある場合、当日受付いたします。資料配布後のキャンセルはできません。

申込方法 「No.16-148 第17回リーダーを目指す技術者倫理セミナー参加申込み」と題記し、(1) 所属学協会、(2) 氏名、(3) 勤務先・所属、(4) E-mail アドレスを明記の上、E-mail にて下記までお申し込み下さい。

申込先・問合せ先 日本機械学会 技術と社会部門 (担当職員 秋山宗一郎) / E-mail: akiyama@jsme.or.jp
/ FAX (03) 5360-3508